東海道分間絵図　三重県総合博物館 所蔵

多賀大社常夜灯

水門の遺構（平成24年撤去）

この絵図は東海道の寺社仏閣・遺跡などを中心に散策される方のガイドマップとして作成しました。みえ朝日東海道のまちなみをお楽しみください。
令和元年12月発行『新修朝日町史』資料編1 を基に作成しています。内容充実のためにご意見を頂ければ幸いです。

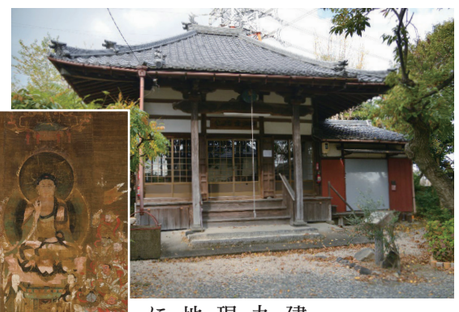
作成：まち歩きマップ作成ワークショップ、朝日まちなみ検討会
協力：朝日町歴史博物館、水彩画教室
発行：朝日町　発行日 令和３年３月

朝日町公式サイト観光ページへ ☞
様々なマップやガイドなどがご利用いただけます。

みえ朝日東海道 まち歩き絵図

この絵は昔の朝日町の東海道やその周辺をイメージした図であり実際とは異なる点があります。

金光寺（こんこうじ）



釈迦十六善神画像（町指定有形文化財）

山号　雨宝山　真言宗
延宝元年（一六七三）桑名藩士近藤新兵衛の家来が小堂を建て十一面観音坐像を本尊としていました。寛政年間（一七八九～一八〇一）に現在地に再建され、明治になって無住となり、現在は「むら持ちの寺」として桑名の大福田寺の僧侶を招いて地区住民によって守られています。本尊は秘仏で二十五年ごとに御開帳されます。桑名地方観音三十三カ所巡礼の二十三番札所であります。寺宝の室町時代、吉山明兆作と言われている釈迦十六善神画像は町指定有形文化財です。また宝永四年（一七〇七）の磬（打楽器）も保存され貴重なものがあります。

苗代神社（なわしろじんじゃ）

主祭神は少彦名命と菅原道真を勧請（分霊）したと伝えられています。延長五年（九二七）に完成した「延喜式神名帳」（当時の法令集で全国の神社が国郡ごとに連記）に朝明郡の一社として記載されています。元和三年（一六一七）第三代桑名藩主松平定勝には家紋梅鉢の使用を許され、田の寄進を受けるなど松平家の崇敬厚い神社です。

真光寺（しんこうじ）

山号　桔梗山　浄土真宗本願寺派
大同二年（八〇七）最澄が天神山の西北（今の北谷）に天台宗寺院として建立、南北朝時代初期（一三四〇頃）住職 祐正は浄土真宗に転派しましたが、永禄年間（一五五八～一五七〇）に焼失しました。正保四年（一六四七）桑名藩主松平定綱の寄進により現在地に本格的な寺院が再建されました。明暦三年（一六五七）定綱の子、第六代桑名藩主定良は療養中の有馬温泉からの帰途に病死、町屋川の洪水で当寺に数日安置されました。そのお礼として松平定重から大手水鉢を寄進、元幕府老中であった定信（白川藩主）からは「桔梗山」掲額を拝領しました。

浄泉坊（じょうせんぼう）

徳川家の巴紋の入った鬼瓦

山号　小向山　浄土真宗本願寺派
慶長八年（一六〇三）に伊勢氏の末裔慶昭が*正治寺を再興し、小向山浄泉坊と改称しました。本尊は阿弥陀如来立像です。徳川家にゆかりある桑名藩主の奥方の菩提寺であったと言われていることから山門の扉、本堂の鬼瓦には徳川家の家紋三つ葉葵と巴紋が使われ、参勤交代の大名は門前で駕籠から降りて一礼したと言われています。現本堂は明治四十三年（一九一〇）に建立されたものです。
*正治寺（廃寺）は、正治年間（一一九九～一二〇一）に小向御厨神明社の別当寺として創建されたと言われています。その後、愛洲宗貫（南北朝時代に活躍した伊勢豪族）が朝明郡の地頭職に補され、小向に城を構え伊勢氏と名乗りました。永禄十年（一五六七）織田信長の北伊勢侵攻の際、滝川一益による兵火で焼失したと言われています。その数年後に長島一向一揆が起こっています。

小向神社（おぶけじんじゃ）

毎年8月13日に行われる八王子祭の火祭り

主祭神は天照大神を勧請した神明社です。明治十年（一八七七）に小向神社と単称、明治四十年には数社を合祀しています。その中に祭神「五男三女神」（八王子）を勧請した宇気比社がありました。境内には享保十三年（一七二八）建立の神明鳥居など古い石造物があります。宝物として、古萬古神酒徳利四対と有節萬古三対が県指定有形文化財に指定されています。

八王子祭

毎年八月十三日に小向神社で行われる火祭りです。江戸時代中期、この辺りに熱病が流行し、神に祈ったことに由来します。祭車の大太鼓・鉦を叩いて町を練り歩き、境内にて上半身裸で火のついた藁をもって叩き合い悪疫を祓う、迫力満点の火祭りです。町指定無形民俗文化財に指定されています。

俳人 山口誓子（やまぐちせいし） 句碑

俳人山口誓子（明治三十四年～平成六年）の句碑。昭和二十五年（一九五〇）に建立。京都府生まれの俳人、昭和十六年から海水浴場に近い天カ須賀で療養生活を七年ほど過ごし、昭和二十三年鈴鹿市の白子鼓ケ浦に転居し、昭和二十八年には西宮に転居。三重での療養生活の間に多くの俳句を残しています。この句碑には誓子の筆跡で書かれています。

「露けさよ禱りの指を唇に触れ」

色絵草花文急須

腥臙脂釉食籠（町指定有形文化財）

森有節（もりゆうせつ） 墓碑

萬古焼再興の祖、*森有節の墓碑です。明治期に作られた登窯の遺跡の近くに建立され、墓碑裏には「明治四十五年一月 三世有節建」と刻まれています。平成十五年に名谷公園が整備され現在の位置に移設されています。
*森有節は文化五年（一八〇八）桑名に生まれ、桑名の豪商沼波弄山が創始した萬古焼（古萬古）を再興するため天保三年（一八三二）に弟千秋と共に小向字名谷に窯を開きました。有節萬古の特徴は急須の生産技術としての木型成型法、大和絵の花鳥を題材に釉薬を重ねて彩色した艶やかな盛絵技法、また金を原料の一部に使った艶やかなピンク色の腥臙脂釉の発明は高く評価されています。

国学者 橘守部翁（たちばなもりべ） 生誕地碑

橘守部は江戸時代後期の国学者で、その生誕地を記念し、昭和二十七年に建立されました。橘守部は「天保の国学四大家」の一人と言われています。国学とは『古事記』『日本書紀』『万葉集』などの古典から日本文化を追求した学問です。代表著作に『日本書紀』の注釈書『稜威道別』等があります。能書家でも知られ「記紀歌謡」屏風（町指定有形文化財）を残しています。碑には国文学者佐佐木信綱（鈴鹿市出身）が賞賛して読んだ歌が刻まれています。

「くちせぬ名を国つ学びの道の上に　残せる大人はこの里そ生みし」

善照寺（ぜんしょうじ）

山号　光雲山　浄土真宗本願寺派
天正年中（一五八〇年頃）埋縄城主疋田左京守の死後、家臣西脇善照が草庵を結び主君を弔ったことに始まります。寛永十八年（一六四一）善照の子善明が阿弥陀如来立像を本尊として父の名を寺名として建立しました。

移田神社（うつしだじんじゃ）

祭神は建速須左之男命を祀っています。明治四十年に神明社、八幡社、山の神社を合祀し、移田神社と単称することになりました。大正十一年に信貴山王蔵院から毘沙門天を迎えて「聖誠院」と称しました。信貴山は仏教寺院であり鳥居のお寺さんと呼ばれていました。

朝日町資料館（しりょうかん）

大正五年（一九一六）に朝日村役場として建てられた庁舎です。村発足当時、明治二十二年（一八八九）村長以下五名、昭和六年（一九三一）六名、昭和三十一年二十一名と行政組織は拡大しました。現庁舎完成後は公民館、そして昭和五十三年に資料館として改修・開館しました。その際に明治四十四年に建てられた旧駐在所の切妻破風の玄関を移築しています。館内には、大正・昭和の生活用品や農耕用具など民俗資料が数多く展示されています。平成十一年（二〇〇〇）に国登録有形文化財に登録。庁舎としては三重県内で他に旧明村役場が登録されています。

唐箕（とうみ）（もみ殻の除去）

朝日村役場当時の町長室

西光寺（さいこうじ）

山号 朝明山 真宗大谷派
寛永十五年（一六三八）製作とされる阿弥陀如来立像を本尊としています。貞享二年（一六八五）に本願寺派から大谷派に転派しています。半鐘は安永六年（一七七七）桑名の鋳物師の名前が刻まれ、地元の作例としては貴重です。所蔵の阿弥陀如来絵像の裏書によれば明応五年（一四九六）まで真宗寺院として寺歴を遡れますが詳細は不明。本堂は明治十年（一八七七）から、書院は明治二十七年に整備されました。本堂の欄間、大間、虹梁、山門及び鐘楼の建築彫刻はすばらしく、名古屋の彫刻師瀬川治助によるものと言われています。境内の松は朝日町の東海道沿線で見られる唯一のものでしたが最近枯れて、半鐘の音のみが東海道の往時を偲ばせています。

井後神社（いじりじんじゃ）

井後神社旧址

井後神社は旧字井戸尻（東海道の海側の農耕低湿地）にあり俗に貴船大明神（祭神：高靇神 水神）とされていました。享保（一七一六～）の頃、この地が柿村に合併した際に産土神（地域の鎮守神）となりました。この辺りには鎌倉時代の井尻遺跡が所在し、船に積まれた山茶碗が多く出土し、船着き場があったとされています。明治四十一年に村社として井後神社の単称となり、明治四十四年低湿地であったことから現在地に移転しました。境内の多賀神社は江戸時代末期に朝明川の北の堤防付近に所在し、伊邪那岐神、伊邪那美神を勧請し祀っていました。また多賀大社常夜灯もその神社の神殿前に建てられていました。河原では奉納相撲、にわか芝居など賑わっていたそうですが明治三十七年頃に旧井後神社、さらに現在地に移されました。境内には、延命長寿を願って初老・厄年・古希祝いの多くの石造物があり、南の参道には厄年記念碑の建立が今も続けられています。

朝日町歴史博物館

朝日町歴史博物館は「ふれあいの里」と呼ばれる丘陵地の教育文化施設内にあります。図書館を併設した複合施設で子供から大人まで楽しむことができます。東海道から西にJR関西線を挟んで二〇〇mのところにあります。

朝日町にゆかりのある歴史資料の展示を見ることができ、講演会も毎年行われ県外からも聴講などに訪れます。展示品としては国学者の橘守部の屏風など、陶芸家の森有節の萬古焼、日本画家の栗田真秀、水谷立仙、俳人の中村古松の作品が展示されています。また町内の遺跡からの出土品も展示しています。

中でも縄生廃寺は昭和六十一年（一九八六）から始まった発掘調査で七世紀～八世紀に造営された*白鳳時代の寺院の塔跡が確認されています。塔心礎から舎利容器として内容器、外容器、唐三彩椀が発見されました。これらは国指定重要文化財となっています。博物館内に三重塔の模型と右回転しながら倒壊した塔の屋根瓦群の一部がレプリカで展示されています。栄枯盛衰を見る思いとまだ新しい発見があるような夢を与えてくれます。

*白鳳時代（文化）
大化の改新（六四五年）から平城遷都（七一〇年）に至る文化を言います。

縄生廃寺出土 舎利容器（国指定重要文化財）

縄生廃寺三重塔模型

日本画家　**栗田真秀**（くりたまひで）　明治四年―昭和一七年
縄生生まれ。桑名の絵師 帆山唯念に入門、その後京都で活躍しました。優雅かつ温和な画風で、自然や歴史物語を好んで描いています。

日本画家　**水谷立仙**（みずたにりっせん）　明治十五年―昭和四五年
小向生まれ。四日市萬古焼の下絵職人として働き、その後 京都画壇の重鎮 竹内栖鳳に学ぶ。花鳥山水などを好んで描いています。

俳人　**中村古松**（なかむらこしょう）　明治三四年～昭和五四年
縄生の生まれ。町屋川をこよなく愛した俳人。俳誌「松の栞」を発行。

「海へそゝく町屋の流れ月朧ろ」